

頌 栄

No. 113

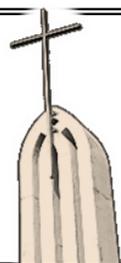
日本キリスト教団 頌栄教会

〒155-0031

世田谷区北沢 1-42-10

Tel 03-3467-3664

Fax 03-3467-8332



コロナ後の世界に向かうために

牧師 清弘 剛生

主は「道端」「石地」「茨の地」という三通りの土地に落ちた種について語られた後、次のように言われました。「また、ほかの種は良い土地に落ち、生え出て、百倍の実を結んだ」。

そして、大声で言われました。「聞く耳のある者は聞きなさい」(ルカ8・8)。

道端というのは、人が通って踏み固められた、畑の中に出来た道のことです。石地とは、畑の中で取り除ききれなかった石が残った場所のことです。茨もまた、根っこを取り除ききれなくて、残っていた根から生え出た茨が麦と一緒に伸びてきたという話です。ですから、道端や石地や茨の

地が永遠にそのままであるとは限りません。皆、良い土地になり得る一つの畑です。イエス様が本当に語りたいたいののは、良い土地についてなのです。

良い土地に落ちた種について、主は次のように説明しています。「良い土地に落ちたのは、立派な善い心で御言葉を聞き、よく守り、忍耐して実を結ぶ人たちである」(15節)。実際、御言葉に聞く生活を妨げるものはいくらでもあります。共に神を礼拝し、主の御言葉に耳を傾ける生活に留まるには忍耐が必要とされます。

新型コロナウイルス感染症の位置づけは、5月8日から

季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げられるようになります。私たちはコロナ後の世界をどのように生きていくのでしょうか。そこでまず必要なことは、コロナを経た私たち自身の信仰生活を省み、主に立ち帰ることなのでしょう。

実際、この3年間は私たちの忍耐が問われた期間だったと言えます。私たちの信仰生活はこの3年間を経てどうなったでしょう。忍耐をもって御言葉に留まり、豊かな実を結んできたでしょうか。それとも現在、「道端」「石地」「茨の地」の様相を呈しているのでしょうか。

今年もレントの季節を迎えました。コロナ後に向かう私たちに、主は「立ち帰れ」と呼び掛けていてくださいます。